

折に触れ 四字熟語

NO. 25 『堆金積玉』 たいきん せきぎよく

< 意味 > 莫大な富を集めること。金銀珠玉を積み上げる意味から。

< 出典 > 「論衡」第一卷・命禄第三

貴富有命福祿、不在賢哲與辯慧。故曰、富不可以籌筭得、貴不可以才能成。智慮深而無財、才能高而無官。懷銀紆紫、未必稷契之才、積金累玉、未必陶朱之智。或時下愚而千金、頑魯而典城。

読み下し：『貴富は命福祿有り、賢哲と辯慧に在らず。故に曰く、富は籌筭を以て得可からず、貴は才能を以て成す可からず、と。智慮深して財無く、才能高くして官無し。銀を懷き紫を紆ふも、未だ必ずしも稷契の才ならず、金を積み玉を累ぬるも、未だ必ずしも陶朱の智ならず。或いは時に下愚にして千金、頑魯にして典城たり。』

通 釈：しかし、貴や富には命禄というものがあって、それは賢哲や遠謀深慮などによるものではない。だから、「富はそろばんずくめで得られるものでなく、貴は才能でなれるものではない」といわれる。智恵や思慮が深いのに財産家でなく、才能がりっぱだのに無官の人がいる。高位高官に昇進するのは、稷や契のような才能の人とは限らないし、巨万の金玉と積み重ねるのは、陶朱のような智恵者とは限らない。時によると、愚の骨頂だのに千万長者となり、石頭のおろか者だのに刺史となったりする。

語 釈：「福」は衍字。「籌筭」は計算用の竹の棒。「稷契」は堯舜に使えた二人の名臣。「陶朱」は春秋時代の富豪。「頑魯」はかたくなでおろか。「刺史」は中国古代の地方官。「典城」は一城をあずかる。

「堆」「積」はともに積み上げるの意。

一 言：年末にいつも行われる日本漢字能力検定協会が全国から募集している「今年の漢字」が発表されました。今年は「金」が選ばれましたので、「金」の付く四字熟語の中から選んでみました。

参照文献：新釈漢文大系「論衡」 岩波書店「四字熟語辞典」